Alpine A110 R Turini

“レーシング”を紡ぎあげて——

**アルピーヌの理念を、持ちうる性能を心底理解しながら
そっと支えて魅力を高めるレースエンジニアリングや、
あるいは世界最高峰のサードパーティたちがいる。
彼らの“レーシング魂”が寄り添った記念碑ホットモデル。
アルピーヌA110 R Turini（チュリニ）に迫る。**

REPORT◉中三川大地（*NAKAMIGAWA Daichi*）　PHOTO◉中島仁菜（*NAKAJIMA Nina*）

近年、稀に見るほど辛口仕上げなのがアルピーヌA110Rチュリニだ。カーボン製フルバケットシートに身を収め、サベルト製の6点式ハーネスで身体を固定し、後方視界がゼロとなるカーボン製リヤパネルを確認するだけでわかる。3点式シートベルトやルームミラーなんて、そもそもついていない。

ストイックな車室空間に加えて、ZF製車高調によりA110Sに対して10㎜ローダウンされているし、カーボン製エアロパーツもてんこ盛り。いかにも街乗りが億劫に思える。実際、スロープや縁石などの起伏で気を遣う場面はある。しかし、それを笑い飛ばせるほどに走りは最高だ。スプリングレートは10%アップ。スタビライザーの剛性もフロント10%、リヤ25%ほど強化されたという。実際、低速域でのダイレクトかつソリッドな感触こそあっても、速度を上げるに連れてしなやかな印象が際立ってくる。硬いけれどドライバーに過度な負担を与えず、路面をいなすように走る。ミッドシップらしい挙動を感じながら、グイグイと曲がっていくのがおもしろい。1・8ℓ直列4気筒ターボ（300PS、340Nm）が、絶妙なパンチ力で「軽いことは正義だ」と訴えかけてくるようだ。

特にブレーキコントロール性が秀逸だ。車種別専用設計を貫くブレンボ製キャリパーの恩恵か。フロントが4ポット、リヤはシングルポットで、前後とも320㎜ローターというのは、そこまで大きいサイズ（容量）ではない。だがブレンボはブレーキに対して「大は小を兼ねない」と考えている。絶対的な制動力とともに、制動力のバランスと自然なタッチを追究することで、A110固有のハンドリング性能を最大限に引き出す。心が高揚するコントローラブルな特性こそ、速く走らせるための“機能”だと思えた。

このゴキゲンな運動性能を、さらに引き立てるパフォーマンスパーツがある。例えば足もとを支えるO.Z（オーゼット）製ホイール。「オーゼット・エストレマ・フォージアータアルピーヌA110」という専用鍛造モデルだ。いかにも切削加工らしさを感じさせるエッジィな造形が、この空力モンスターと調和する。タイヤの選択肢が豊富な18インチサイズで、Ⓕ7・9kg、Ⓡ8・5kgと軽量仕上げ。ほかと乗り比べたわけではないものの、この強さと軽さはA110Rチュリニの運動性能に貢献しているはずだ。純正装着タイヤはミシュラン・パイロットスポーツカップ2だった。

アクラポヴィッチのチタンエキゾーストシステムも見逃せない。重量はわずか8・2kgで、純正比でマイナス3・5kgを達成したという。この軽量性能こそチタン成型技術を得意とするアクラポヴィッチの真骨頂





サベルト製のカーボン製フルバケットシートと6点式レーシングハーネスを標準装備。ダッシュボードやルーフ、ドアトリム、センターコンソールはマイクロファイバーで覆われる。受注生産プログラム「アトリエ」も用意され、自分好みのコーディネートが可能だ。





A110専用設計ホイール「O.Z ESTREMA FORGIATA ALPINE A110」が装着される。フロント7.5J、リヤ8.5Jの18インチで、それぞれ7.9kg、8.5kgと軽量ながらも、オーゼットが誇る切削鍛造製法により高い強度と剛性を持つ。色味はダークグラファイトとなる。









SPECIFICATIONS
アルピーヌA110 R チュリニ

■ボディサイズ:全長4255×全幅1800×全高1240㎜ ホイールベース:2420㎜ ■車両重量:1100kg ■エンジン:直列4気筒DOHCターボ 総排気量:1798cc 最高出力:300PS(221kW)/6300rpm 最大トルク:340Nm(34.6kgm)/2400rpm ■トランスミッション:7速DCT ■駆動方式:RWD ■サスペンション:Ⓕ&Ⓡダブルウイッシュボーン ■ブレーキ:Ⓕ&Ⓡベンチレーテッドディスク ■タイヤサイズ:Ⓕ215/40R18 Ⓡ245/40R18 ■車両本体価格:1610万円

「ラディカル(極端な、過激な)」というコンセプトを持つA110 Rチュリニは、アルピーヌがF1への参戦を始めとするモータースポーツで培った軽量化技術や空力性能技術などをふんだんに盛り込んで鍛え上げたホットモデルだ。



システム単体の重量はわずか8.2kg(純正比-3.5kg)と軽量性能に秀でているアクラポヴィッチ・チタニウム・エキゾーストシステム。音量規制、環境対応性能というレギュレーションのなかで“音量”ではなく“音質”にこだわり、また伝統工芸品的な美しさも併せ持つ。

で、針の穴をつついて軽量性能を突き詰めるA110Rチュリニの方向性とも合致する。出力性能への関与については公表されていないものの、軽量化に加えて澄んだ管楽器のような音色とともにトップエンドまで吹けあがっていく感触を味わうたび、相応の排気効率アップも遂げているに違いない。なによりも右足の動きと連動して放たれる音色が気持ちいい。スポーツモード以上では、相応の回転数からのアクセルオフで「バンバン」とバブリング音まで聴こえて、気分はアガりっぱなしだ。

アルピーヌ自身は、このA110RチュリニのことをBWTアルピーヌF1チームと協力して、レーシングカーを公道で走らせることを実現した」と述べている。それだけの刺激と興奮に満ちあふれたホットモデルであることには間違いない。そこにオーゼット、アクラポヴィッチ、ブレンボなど同じく最高峰のモータースポーツ技術を持ったサードパーティまで寄り添うのだから、その魅力は計り知れない。アルピーヌ自身を含めて電動化が刻一刻と迫るこの時代に、こんな記念碑的なスポーツカーを設定してくれたアルピーヌの粋な計らいに感謝したい。





問い合わせ／アルピーヌコール 0800-1238-1100 https://www.alpinecars.jp